



# ほっとほっとタイムズ—第5号—

2023.7.20

井荻小学校 特別支援教育校内委員

このところ、命の危険を感じるような猛暑が続いておりますが、皆様お元気でお過ごしでしょうか。

1学期も今日で終わりを迎え、長い夏休みに入ります。子供たちは夏休みをうんと楽しみにしている半面、お仕事の休みをなかなか取れない保護者の方々は、いろいろ悩んでいらっしゃるのではないのでしょうか。

先日、ある区立幼稚園の園長先生のお話を伺う機会がありました。幼稚園は、ただ遊んでいるように見えるけれど、遊びを通して様々な能力を育てている。「遊びという実体験の中で、協力して何かをやり遂げる力、やり抜く粘り強さ、自ら進んで取り組む力などの非認知能力と、言語で伝えたり聞いて理解したりする力、数、図形などを理解する力などの認知能力、両方が育っている」のです。そして、より豊かな学びができるよう、意図的に環境を整えているというお話でした。見えないところで子供たちはたくさんの力を身に着けているのですね。

また、「心が動き、何かをやってみたい!」と思い、そこから身近な環境に自分からかかわって遊ぶ中にこそ、今、その子に必要な学びがある」とか、「心が動き、相手に伝えたいという思いがあるからこそ、言葉に出して伝えようとする」という言葉も出てきました。この園長先生の言葉、小学校の場にいる私たちと全く同じだと感じました。実は、幼稚園から、高校まで、文科省の打ち出している教育の目標は「主体的・対話的で深い学び」なのです。

思い出したことがあります。以前、こども園を訪問した時のことです。年長さんを連れて散歩に出かけた時、「青信号になったら渡る」ことを教えるために、その子が自分で判断して歩き出すまで、5分近くも待ったという話を聞きました。自分で動き出すまで待つことのできる保母さんと子供たち。素晴らしいと思いました。こうした経験を積んで子供たちは成長していくのです。難しいことですが、子供に寄り添うとはこういうことなのだと思います。

子供たちに豊かな学びをさせるために必要なのは、豊かな実体験の場を準備すること・子供たちの「やってみたい!おもしろそう!」という主体的な思いを大切にしてやること・子供たちの伝えたい思いを受け止め、しっかり聞いてあげたり、伝え方を丁寧に教えたりすることなのです。しかし、子供を取り巻く環境はこれと正反対な気がします。ゲーム、ユーチューブ、ビデオを与えておけばおとなしくしている子ども、お稽古事、塾で目いっぱい生活をしている子供たち。ゆっくり子どもと向き合いたいのに、その時間のゆとりがなく、時間でおいたてる生活になってしまう大人の生活。でも、ほんのわずかの時間でも、例えば一緒に料理を作る、セミの羽化をじっと観察する、朝早く起きて朝顔が咲く瞬間をながめる・・・など、子供と一緒に体験できれば、それはそれで心に残る体験になるのではないのでしょうか。

40日もの長いお休みに入ります。元気で、経験を積んで一回り大きく育ってくれれば嬉し  
しいです。9月、元気な顔で会えるのを楽しみにしています。

